

中学校 保健体育

保健体育科の目標は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することである。

指導に当たっては、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行い、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努め、特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科の時間はもとより、技術・家庭科及び特別活動等においても、それぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることが大切である。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが必要である。

1 保健体育科の指導の重点

体育分野

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わわせ、運動、体力の必要性について理解させるとともに、基本的な技能を身に付けさせる。運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを認めるなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、生涯にわたって運動をする態度を養う。

(1) 系統性を踏まえた指導内容の見直しと、年間指導計画の作成をしよう

小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視し、12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直しを図るとともに、3年間の見通しをもった年間指導計画の作成をする。各領域における「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の指導内容の重点化を図る。

(2) 運動やスポーツの多様な楽しみ方の学習や個に応じた指導を充実させよう

ア 体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成するため、共生の視点に基づいた各領域における指導の充実や、各学校の実態に応じた生徒による選択種目の履修体制を整えるなどの工夫をする。また、種目に応じた男女共習や、特別な配慮を要する生徒への手だてを講じて、運動・スポーツのさまざまな楽しみ方を体験することができるようにする。

イ 生徒一人一人が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学習内容の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教員間の協力的な指導等の指導方法や指導体制の工夫改善を通して、個に応じた指導の充実を図る。

(3) 体力の向上を目指そう

運動やスポーツの習慣化につながるよう、「体づくり運動」の学習を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させる。さらに、「体づくり運動」以外の運動に関する領域においても、学習した結果としてよりいっそうの体力の向上を図ることができるようにする。

保健分野

個人生活における健康・安全に関する理解や基本的な技能を身に付けさせ、健康について自他の課題を発見し、解決に向けて思考し判断する力や、生涯を通じて明るく豊かな生活を営む態度を育成する。

(1) 多様な指導方法を工夫しよう

ア 小学校及び高等学校との系統性ある学習指導に取り組み、必要に応じて養護教諭等との連携・協力を得て指導する。生徒の興味・関心を高めるような内容を取り扱い、思考を深める発問を用意する。また、日常生活に関連が深い教材や教具を使用したり、事例等を用いたディスカッションやブレインストーミング等の授業展開を取り入れたりすることで、生徒が身近な問題として積極的に学習に取り組めるようにする。

イ 実習や実験を取り入れる際には、技能の習得だけでなくその意義や手順等の指導内容を理解させ、課題解決のための思考力、判断力、表現力等との関連を図る。

(2) 体育分野との相互の関連を図ろう

健康な生活と運動やスポーツとの関わりを深く理解させたり、心と体が密接につながっていることを実感させたりするために、「体づくり運動」や「水泳」等の体育分野の学習と関連付けた保健分野の学習指導を充実させる。

2 主体的・対話的で深い学びを引き出す保健体育科の学習指導

(1) 学びに必要な指導の在り方を工夫しよう

ア 興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習内容を考察し、課題の修正や新たな設定のできる指導内容を計画する。特に「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することによって、より質の高い深い学びにつなげる。また、単元等内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行う。

イ 必要な知識及び技能を指導しながら、生徒の思考を深めるために発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、必要な学習環境を積極的に整備していく。

ウ 障害のある生徒等に対しては、実技の複数教員による指導や個別指導等、学習活動を行う際に生じる個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する。その際、内容の変更や活動の代替を安易に行わないよう留意しつつ、生徒の負担や心理面にも配慮する。地域等の人的・物的資源等の活用を図り、指導の充実につなげる。

(2) コンピュータ等の情報機器を活用し、各分野の特質に応じた学習活動をしよう

ア 各分野の特質を踏まえ、コンピュータや情報通信ネットワーク等を適切に活用することで、学習の効果を高めることをねらいとする。

イ 活動そのものの低下を招かないように留意しつつ、情報収集や課題の解決方法の選択等で活用したり、運動の実践で映像を見たり記録をとったりするなどの補助的手段として活用する。

(3) 言語活動を重視し、コミュニケーション能力や思考力の育成を促そう

練習や作戦、健康について話し合う活動を通して、知識を活用して思考する機会や、思考し判断したことを仲間に伝える機会等を適切に設定する。

(4) 具体的な体験を伴う学習の工夫をしよう

習得・活用・探究という学びの過程を通して、試行錯誤を重ねながら思考を深め、運動や健康についてよりよく解決するなどの深い学びを促す。そのために、体育分野と保健分野、保健体育科以外の教科や特別活動等の学習内容を関連付け、家庭や地域にも学習の場を広げて、体験を交えながら学習を深めていけるような工夫をする。

(5) 評価を次の学習活動につなげよう

ア 単元や題材等、内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、評価規準や評価方法を明確に示す。

イ 生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。その上で、生徒への指導や支援を工夫し、指導と評価の一体化を図るようにする。